**国際宇宙ステーション（ISS）開発に関する予算**

**（事業名）**

●国際宇宙ステーション開発に必要な経費

【文部科学省】（一般会計　39,887百万円）

●国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構運営費交付金に必要な経費

【文部科学省】（一般会計　125,401百万円）

**（事業概要）**

　新たな技術・科学的知見の獲得や国際協力の推進などを目的として、国際宇宙ステーション（ISS）／日本実験棟「きぼう」の運用・利用を確実に実施する。また、宇宙ステーション補給機（HTV）の開発及び運用を着実に実施する。なお、国際宇宙ステーションには年間400億円前後が投じられており、昭和62年から平成25年までの累計は約8,260億円である（内訳は、「きぼう」の開発に約2,500億円、地上施設の開発や宇宙飛行士の養成、打ち上げ等に約2,360億円、運用利用に係る経費に2,270億円など）。

**（主な論点）**

●多額の国費投入に見合う成果が得られているのか。

●「きぼう」で実施する研究課題について、透明なプロセスでの選定及び成果の評価がなされているか。

●民間からの受託を拡大することで、一層の民間資金の活用を図るべきではないか。

●現状の成果指標（査読付き論文数）は適切か。